



令和2年度 第1・第2分科会 研究実践報告

東京都立城南特別支援学校

01 昨年度の研究

重度・重複障害の児童・生徒 の言語発達の理解促進

児童・生徒にとっての言語・言語活動とは何か。

⇒児童・生徒の受信や発信を教員が言語化して行う様々な活動。

児童・生徒の言語・言語活動・コミュニケーションを捉えるための観点の整理。

⇒アンケートを基に簡易的な発達段階表を作成。

02 研究構想

研究の目的（仮説）

教員が、発達段階表を基に実態を客観的に把握して授業づくりを行うことで、自立活動を主とする教育課程に属する児童・生徒の言語活動を充実させることができる。

令和2年度の到達目標

- 1 オリジナルアセスメントの改良。
- 2 児童・生徒の「言語活動」の実態を客観的に把握した授業づくり。

03 実践内容

1 オリジナルアセスメントの改良

- ・昨年度末に作成したオリジナルアセスメントに、既存のアセスメントの要素を追加し、項目を整理する。
- ・グループごとにアセスメント表を使って実態把握をし、感想を出し合う。

2 児童・生徒の「言語活動」の実態を客観的に把握した授業づくり

- ・児童・生徒の実態把握にオリジナルアセスメントを活用し、授業案の作成、「言語活動」指導場面の分析、他学部他グループとの情報交換。

03 実践内容1

1 オリジナルアセスメントの改良

「乳幼児精神発達診断法」

「津守式乳幼児精神質問紙」

「KIDS乳幼児発達スケール」

を参考にして、項目を整理。

「できる」の程度がざっくりと把握しやすいように「1・2・3」と項目ごとに段階を追加。

表出できる相手や場面、教材などを具体的に把握しやすいように、項目ごとにコメントを書き込める余白を追加。

出典：
津守真、稲毛教子著「増補 乳幼児精神発達診断法」大日本図書1995年
尾崎康子、三宅篤子「乳幼児期における発達障害の理解と支援①知っておきたい発達障害のアセスメント」
株式会社ミネルヴァ書房2016年

第1・第2分科会

	1			2			3					
	内容	具体例		内容	具体例		内容	具体例				
理解・受容	身体が安定している 音を開けるような状態にある(発作がない、吸引の必要がない、見通しをもってリラックスしている)	1	2	3	音の方向に注意を向けようとする 音のする方向に視線や身体を動かす。	1	2	3	音や言葉かけに声や動きで積極的に応じようとする 教員の言葉かけに応じて声を出す	1	2	3
	身体接触や振動に反応する 楽器やラジカセの振動や言葉のリズムに合わせたタッピングを感じている	1	2	3	話しかけた相手に注意を向ける 教員の言葉掛けに気づいて視線を合わせる	1	2	3	言葉を理解して適切に応じる 言葉を理解する(「見て」で見る、「ちょうだい」で渡す)	1	2	3
	音に反応する 言葉や音に、表情や視線、身体の動き、発声で反応する。動きを止める。	1	2	3	好きな音や音楽、言葉などを聞き分けて反応する 身近な教員の声を聞き分ける(泣き声が静まるなど)	1	2	3	(「どれ？」で答える)	1	2	3
					自分の真似を喜ぶ 子どもの出した声を真似ると喜ぶ	1	2	3	(待つなどできる)	1	2	3
表出	生理的な変化が起こる 心拍や筋緊張の変化がある	1	2	3	声にならないが息を出す 何らかの事象や対象に対して、息が漏れる、ため息をつく等で発信しようとしている様子が見られる	1	2	3	動作で意図を表現する 手を叩いて要求する	1	2	3
	泣く・笑う	1	2	3	声を出す 声を出して発信しようとしている様子が見られる	1	2	3	単語で話す 発音する(1語文)	1	2	3
	刺激や環境の変化に応じて表情を変える 環境の変化(明暗、車椅子→布団への移動等)に気づき、表情を変えたり、視線を動かしたりする	1	2	3	いろいろな大きさ、音程、音色の声を 出す 不快や要求など、気持ちによって異なる声を出す	1	2	3	語連鎖で話す 発音する(2語文)	1	2	3
	刺激や環境の変化に応じて口や手足を動かす 環境の変化(明暗、車椅子→布団への移動)に気づき、身体や口の動きで表出する	1	2	3	相手の動き掛けに合わせた発声や動作がある 相手の呼び掛けに対して発声(返事)や身体の動きの応答がある	1	2	3	言葉で状況を伝えたり、やり取りをしたりする 言葉のやり取りをする	1	2	3
	刺激や環境の変化に応じて目を開けたり、興味のあるものを見ようとしたりする 興味のあるものや気になるもの、提示物を見る(視線を向ける、眺める)	1	2	3								
対人コミュニケーション	他者に意識を向ける 人がそばにいることに気づき、じっと見つめる。目で追う。	1	2	3	人の区別がつく 知らない人が来ると、じっと見たり、泣いたりする。特定の人を目で追う。	1	2	3	知っている人に自分から要求を出す 自分から笑い掛けたり、声を出して特定の人の注目を引こうとする。	1	2	3
	拒否の表現をする 不快な表情をしたり、泣いたり、声を出したりする	1	2	3	相手から視線をそらす	1	2	3	語調を理解した反応をする 怒られたら泣く。ダメと言われたらかえってやりたがる。	1	2	3
	他者からの働き掛けを楽しむ 人に抱きかかえられることで、緊張や表情が緩む	1	2	3	相手からの働き掛けに対して身体の動きや声で応じる (呼びかけに対して) 声を出したり身体を動かしたりして反応する	1	2	3	伝えたいことを自分から手や身体の動きで表そうとする 要求や伝えたいことがあると相手に向けて声を出したり身体に働き掛けたりする	1	2	3
	手を差し伸べると応じる タッチ、握手など。	1	2	3	相手の動きを模倣する 「バイバイ」と言って手を振ると振り返す	1	2	3	簡単な質問に答える 先生は？アッチ。など	1	2	3

1・2・3は、
できる度合いで。

1は、20%未満。
2は、50%程度。
3は、80%以上。

具体例には、
「教材」
「場面」
「頻度」
「表出方法」
「誰と」
「環境」など
具体的に記入。

03 実践内容2

2 児童・生徒の「言語活動」の実態を客観的に把握した授業づくり

アセスメント表を指導案に添付。

協議会は、ビデオを見ながら実態・言語活動の工夫・児童生徒の表出について情報共有。

アンケートで意見を集約。

04 実践1(小学部)

単元名『だるまさんが』（国語・算数）

対象 小学部低1G6名

単元の目標

- 絵本の繰り返しのフレーズに気づき、視線や表情で表す。
- 視覚、聴覚、触覚などの感覚を活用して、教材に気づき、能動的に働きかける。
- 教員からの働きかけを受けて、簡単な動きや表情等で応じることができる。

重点を置く指導事項

- 言葉のリズムに親しめるように、「どてっ」「にこっ」など簡潔なフレーズを繰り返し指導する。
- 覚醒に応じて刺激の強さを調節し、提示された教材に諸感覚を活用して気付けるように指導する。
- 表出を教員が読み取り、すぐに言葉で返すことで、表現すること、やり取りすることの楽しさを感じられるようにする。

小学部低1G
児童の例

	1			2			3					
	内容	具体例		内容	具体例		内容	具体例				
理解・受容	身体の状態が安定している 音を聞けるような状態にある(発作がない、吸引の必要がない、見通しをもってリラックスしている)	1	2	3	音の方向に注意を向けようとする 音のする方向に視線や身体を動かす。	1	2	3	音や言葉かけに声や動きで積極的に応じようとする 教員の言葉かけに応じて声を出す	1	2	3
	身体接触や振動に反応する 楽器やラジカセの振動や言葉のリズムに合わせたタッピングを感じている	1	2	3	話しかけた相手に注意を向ける 教員の言葉掛けに気づいて視線を合わせる	1	2	3	言葉を理解して適切に応じる 言葉を理解する(「見て」で見る、「ちょうだい」で渡す)	1	2	3
	音に反応する 言葉や音に、表情や視線、身体の動き、発声で反応する。動きを止める。	1	2	3	好きな音や音楽、言葉などを聞き分けて反応する 身近な教員の声を聞き分ける(泣き声が静まるなど)	1	2	3	(「どれ？」で答える)	1	2	3
					自分の真似を喜ぶ 子どもの出した声を真似ると喜ぶ	1	2	3	(待つなどできる)	1	2	3
表出	生理的な変化が起こる 心拍や筋緊張の変化がある	1	2	3	声にならないが息を出す 何らかの事象や対象に対して、息が漏れる、ため息をつく等で発信しようとしている様子が見られる	1	2	3	動作で意図を表現する 手を叩いて要求する	1	2	3
	泣く・笑う	1	2	3	声を出す 声を出して発信しようとしている様子が見られる	1	2	3	単語で話す 発語する(1語文)	1	2	3
	刺激や環境の変化に応じて表情を変える 環境の変化(明暗、車椅子→布団への移動等)に気づき、表情を変えたり、視線を動かしたりする	1	2	3	いろいろな大きさ、音程、音色の声を出す 快不快や要求など、気持ちによって異なる声を出す	1	2	3	語連鎖で話す 発語する(2語文)	1	2	3
	刺激や環境の変化に応じて口や手足を動かす 環境の変化(明暗、車椅子→布団への移動)に気づき、身体や口の動きで表出する	1	2	3	相手の働き掛けに合わせた発声や動作がある 相手の呼び掛けに対して発声(返事)や身体の動きの応答がある	1	2	3	言葉で状況を伝えたり、やり取りをしたりする 言葉のやり取りをする	1	2	3
	刺激や環境の変化に応じて目を開けたり、興味のあるものを見ようとしたりする 興味のあるものや気になるもの、提示物を見る(視線を向ける、眺める)	1	2	3								
対人コミュニケーション	他者に意識を向ける 人がそばにいることに気づき、じっと見つめる。目で追う。	1	2	3	人の区別がつく 知らない人が来ると、じっと見たり、泣いたりする。特定の人を目で追う。	1	2	3	知っている人に自分から要求を出す 自分から笑い掛けたり、声を出して特定の人の注目を引こうとする。	1	2	3
	拒否の表現をする 不快な表情をしたり、泣いたり、声を出したりする	1	2	3	相手から視線をそらす	1	2	3	語調を理解した反応をする 怒られたら泣く。ダメと言われたらかえってやりたがる。	1	2	3
	他者からの働き掛けを楽しむ 人に抱きかかえられることで、緊張や表情が緩む	1	2	3	相手からの働き掛けに対して身体の動きや声で応じる (呼びかけに対して)声を出したり身体を動かしたりして反応する	1	2	3	伝えたいことを自分から手や身体の動きで表そうとする 要求や伝えたいことがあると相手に向けて声を出したり身体に働き掛けたりする	1	2	3
	手を差し伸べると応じる タッチ、握手など。	1	2	3	相手の動きを模倣する 「バイバイ」と言って手を振ると振り返す	1	2	3	簡単な質問に答える 先生は？アッチ。など	1	2	3

04 実践2(高等部)

単元名『日本文学を知る』～檸檬 梶井基次郎～（国語・数学）

対象 高等部1G 4名

単元の目標

- ・ 教員の読み聞かせ等に注目することができる。
- ・ 形の違いに気付き、正しいものを選択することができる。
- ・ 身振りや音声言語で「どうぞ」を伝えることができる。

重点を置く指導事項

- ・ 朗読や再現活動を通して、日本文学に触れる。
- ・ 紡錘形（レモン型）と丸型の形の違いに気付く。
- ・ 「れもん」「どうぞ」のキーワードを理解することができる。

高等部1G 生徒の例

	1	2	3			
理解・受容	内容 身体の状態が安定している 音を開けるような状態にある(発作がない、吸引の必要がない、見通しをもってリラックスしている)	具体例 1 2 ③ 授業者に対して視線を向け、常時話を聞く姿勢が見られる	内容 音の方向に注意を向けようとする 音のする方向に視線と身体を動かす。	内容 音や言葉かけに声や動きで積極的に対応しようとする 教員の言葉かけに応じて声を出す	具体例 1 2 ③ 授業者に対して視線を向け、常時話を聞く姿勢が見られる	
	内容 身体接触や振動に反応する 楽器やファンカセの振動や言葉のリズムに合わせたタッピングを感じている	具体例 1 2 ③	内容 話しかけた相手に注意を向ける 教員の言葉掛けに気づいて視線を合わせる	内容 言葉を理解して適切に応じる 言葉を理解する(「見て」で見ると、「ちょうどいい」で渡す)	具体例 1 ② 3 「見て」に対して、視線を向けることが多い	
	内容 音に反応する 言葉や音に、表情や視線、身体の動き、発声で反応する。動きを止める。	具体例 1 2 ③	内容 好きな音や音楽、言葉などを聞き分けて反応する 身近な教員の声を聞き分ける(泣き声が静まるなど)	内容 (「どれ？」で答える)	具体例 1 ② 3 どれに対して選ぶとする	
			内容 自分の真似を喜ぶ 子どもの出した声を真似ると喜ぶ	(待つなどできる)	具体例 1 ② 3	
表出	内容 生理的な変化が起こる 心拍や筋緊張の変化がある	具体例 1 2 ③	内容 声にならないが息を出す 何らかの事象や対象に対して、息が漏れる、ため息をつく等で発信しようとしている様子が見られる	内容 動作で意図を表現する 手を叩いて要求する	具体例 1 2 ③ 要求をするときに手を合わせるができる	
	内容 泣く・笑う	具体例 1 2 ③ 嫌なこと、苦手なことに関して表情がかわる	内容 声を出す 声を出して発信しようとしている様子が見られる	内容 嫌なこと、苦手なことに関して表情の変化、緊張がある	具体例 1 2 ③ 発声で要求を伝えようとする	
	内容 刺激や環境の変化に応じて表情を変える 環境の変化(明暗、車椅子→布団への移動等)に気づき、表情を変えたり、視線を動かしたりする	具体例 1 2 ③ 変化に対して表情を変える	内容 いろいろな大きさ、音程、音色の声を発音する 快不快や要求など、気持ちによって異なる声を出す	内容 声のトーンで快不快を伝える	内容 単語で話す 発音する(1語文)	具体例 ① 2 3
	内容 刺激や環境の変化に応じて口や手足を動かす 環境の変化(明暗、車椅子→布団への移動)に気づき、身体や口の動きで表出する	具体例 1 2 ③	内容 相手の働き掛けに合わせた発声や動作がある 相手の呼び掛けに対して発声(返事)や身体への動きの応答がある	内容 相手の呼びかけに反応し、返事ができる	内容 語連続で話す 発音する(2語文)	具体例 ① 2 3
	内容 刺激や環境の変化に応じて目を開けたり、興味のあるものを見ようとしたりする 興味のあるものや気になるもの、提示物を見る(視線を向ける、眺める)	具体例 1 2 ③ 興味のあるものに対して注視する				具体例 ① 2 3
対人コミュニケーション	内容 他者に意識を向ける 人がそばにいることに気づき、じっと見つめる。目で追う。	具体例 1 2 ③ 近くを通る人や近づく人をよく見る	内容 人の区別がつく 知らない人が来ると、じっと見たり、泣いたりする。特定の人を目で追う。	内容 知っている人に自分から要求を出す 自分から笑い掛けたり、声を出して特定の人の注目を引こうとする。	具体例 ① 2 3	
	内容 拒否の表現をする 不快な表情をしたり、泣いたり、声を出したりする	具体例 1 2 ③	内容 相手から視線をそらす	内容 語調を理解した反応をする 怒られたら泣く。ダメと言われたらかえってやりたがる。	具体例 ① 2 3	
	内容 他者からの働き掛けを楽しむ 人に抱きかかえられることで、緊張や表情が緩む	具体例 1 2 ③ ストレッチを好み、落ち着いた表情になる。	内容 相手からの働き掛けに対して身体の動きや声で応じる (呼びかけに対して) 声を出したり身体を動かしたりして反応する	内容 伝えたいことを自分から手や身体の動きで表そうとする 要求や伝えたいことがあると相手に向けて声を出したり身体に働き掛けたりする	内容 依頼、要求の際、手を合わせて声を出すことがある	具体例 1 ② 3
	内容 手を差し伸べると応じる タッチ、握手など。	具体例 1 2 ③ タッチが確実にできる	内容 相手の動きを模倣する 「バイバイ」と言って手を振ると振り返す	内容 手を叩く、合わせる等の模倣がある程度できる	内容 簡単な質問に答える 先生は？アッチ。など	具体例 ① 2 3

05 研究成果1

オリジナルで作ったアセスメントを使ってみたら

児童・生徒の実態観察の際
観点が分かりやすい。

児童・生徒の変化を
とらえるツールになる。



児童・生徒の実態を
共通理解できる。

授業のねらいが整理
しやすくなる。

自由記述欄への記入が大切。

05 研究成果2

授業づくりで大切にしたいこと

「ことば」の選定

繰り返し
授業内・生活の中

間



日常生活との関わり

評価

アプローチの強さ

教職員間での共通理解

06 次年度に向けて

アセスメントの自由記述欄を活用した具体的な実態の把握と評価。

児童・生徒の言語活動指導のポイントを共通理解した上で行う授業実践。

「言語活動」を充実させる授業デザインを考える。